

＜一年生進級基準について＞

一年生に進級するには、授業全体の進行の妨げにならない為にも、以下の日本語能力が期待されます。

#1. たわいない日常会話（挨拶、何を食べたか、何をしたか）等が日本語で話せる。

#2. 2～3の連立した日本語の文の指示が理解できる。（例：「この鉛筆を向こうの机に持って行って、机の上にある紙と本を持ってきてくれますか？」； 「テストをするので、教科書とノートを鞆にしまって、鉛筆と消しゴムだけ机に出してください」）

その他に、以下の状態も考慮に入れます。

#3. 先生やクラスメートと（注意されれば）カタコトでも日本語で会話ができる。

#4. 4～6歳の年齢相当の漠然とした常識的な日本文化の理解があること。（「かざぐるま」「もち」「お正月」など、教科書やドリル、授業中の会話に出てくるのですが、日本に住んでいれば当たり前のような事も先生が説明してもピンと来ないケースがあるそうです。）

#1と#2に関しては、1年生担任の先生が年長保育の2学期中に面接（「進級テスト」）をし、その結果と#3と#4の要素を年長組の先生と相談して考慮した上で、判断をします。その時点で基準に達していないと判断された児童には、3学期中にもう一度「進級テスト」をし、最終判断をします。その時点でも「進級できない」と判断された児童には、1年生への進級許可は出ません。（もう一年間くじら組でがんばってもらいます。）

上記の基準は、いずれも年長組の1年間の時間をかけて家庭でも日常から努力をすれば満たす事の出来るレベルだと思われまます。

上記の基準に達していない生徒さんは、一年生での授業について行くのも大変でしょうが、それ以上に中／高学年になって授業が分からなくなってしまうでしょう。末永く補習校に楽しく通える為にも、ぜひ幼稚部の時機に必要な日本語能力を身に付ける努力を親子ですて頂きたいと思ひます。補習校は日本語を学ぶ所ではなく、日本語で学ぶ場所であるという前提をご理解いたひきたいと思ひます。

この基準は、今後入園される園児の保護者の方にもお配りし、あらかじめご理解頂くようにする方針です。

<学校生活での振る舞い、行動、精神的な面の成長について>

進級基準に加えて、以下のような行動／精神面での成長が見られるよう、ご家庭でもお子さんの心の準備をするお手伝いをして頂きたいとのリクエストが講師側から出されています。

- 1) 皆と集団行動ができるように。クラスメートと分け合ったり、自分の順番を待つことができるように。（トイレに行く時、お昼前に手を洗う時、自分の事だけでなく、他の人の事も考えて行動できるように。）
- 2) 先生(大人)の指示に従うことができるように。そして解らない時は、先生(大人)に助けを求めたり、質問することができるように。
- 3) 少時間、自分一人で与えられた活動を静かにすることができるように。（1ページぬりえをしたり、しばらく絵本を見たり聞いたりして、小時間集中力が持てるように。）
- 4) 他の子のお話 / 意見を聞いたり、その子の意見に対して応答できるように。易しいことは、自分で選択ができるように。（これとあれと、どちらの方が好きですか？）
- 5) 少しだけの助けで、自分でトイレに行ったり、服やジャケットを脱いだり着たりできるように。自分の身の回りの整頓、整理ができるように。（靴のひもを自分でむすんだり、ジッパーを上げたり下げたりできるように。）
- 6) 一つの活動から次の活動にすぐ換えることができるように。（一年生の例として：算数から、休憩時間、お昼時間、体育館、音楽、そして国語の時間への切り替えが素早くできるように。先生の話聞くことから、ワークシート、音読、そして答え合わせなどへの切り替えがスムーズにできるように。）
- 7) 小さな失敗や、失望に対処できるように。（すぐに泣いたり、長時間すねたり、ふてくされたりしないように。）